

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-170296
(P2004-170296A)

(43) 公開日 平成16年6月17日(2004.6.17)

(51) Int.Cl.⁷G 01 K 7/00
A 61 B 5/00

F 1

G 01 K 7/00
A 61 B 5/00

テーマコード(参考)

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号

特願2002-337717 (P2002-337717)

(22) 出願日

平成14年11月21日 (2002.11.21)

(71) 出願人 302007208

赤塚 利枝子

宮崎県宮崎市大字有田375番地1

(72) 発明者 赤塚 利枝子

宮崎県宮崎市大字有田375番地1

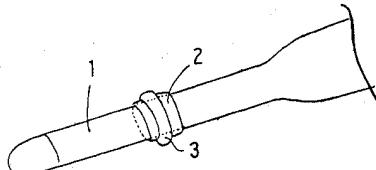
(54) 【発明の名称】舌下式体温計の外れ防止具

(57) 【要約】

【課題】舌下式体温計は舌下に差し込むため、うまく咥えようとする時、上の歯で体温計を口の内側に押し込めようとする力が作用するが舌の根元及び下の歯が外方へ押し出そうとする力として作用し脱落してしまうという問題があった。

【解決手段】舌下式体温計の歯が当たる位置に、上歯と下歯で口腔の内外に働く力を受け止めバランスを取ることのできる形状の装着物を挿着することによりその解決を図った。すなわち舌下式体温計1に中央部を帯状に膨出させたリング状の緩衝体2を装着するようにして体温計を口中に咥えたときにその外れ防止を図ったものである。

【選択図】 図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

中央部を帯状に膨出させた緩衝体(2)を体温計(1)に装着するようにした舌下式体温計の外れ防止具。

【発明の詳細な説明】**【0001】****【発明の属する技術分野】**

本発明は舌下式体温計を口に差し込んだときに体温計が口中から外れないように歯の当たる位置に緩衝体を装着するようにした舌下式体温計の外れ防止具に関するものである。

【0002】**【従来の技術】**

【特許文献1】実開昭62-35237号公報

【特許文献2】実開昭61-3432号公報

【特許文献3】実開平2 148433号公報

【0003】

従来舌下式体温計の口に入る部分全体の表面がつるつるしている為、くわえた状態を保つのが困難であった。かかる不具合を解決するために上記特許文献のものが提案されている。すなわち特許文献1及び特許文献2のものは、体温計の口にくわえる部分に段差部または凹凸部を設けて口唇または歯で挟持することにより体温計の口中からの脱落を防ぐものである。然しながらこのものはガラス管またはプラスチック管自体に段差部または凹凸部を設けるものであるからコストアップになるという問題があった。

【0004】

また特許文献3のものは体温計をくわえたときに歯の当たる部分に緩衝部材を装着したものである。然しながらこのものは平坦な弾性体を体温計に装着したものであって歯の引っ掛かりが無いため舌下に差し込んだときに舌の根元で押され安定せず脱落してしまうという不具合があった。

【0005】**【発明が解決しようとする課題】**

本発明は上記従来例の不具合を解消するために為されたものである。すなわち舌下式体温計は舌下に差し込むため、うまく咥えようとする時、上の歯で体温計を口の内側に押し込めようとする力が作用するが舌の根元及び下の歯が外方へ押し出そうとする力として作用し安定せず、口を少しでも開くと脱落してしまうという問題があった。特に婦人体温計は目覚めてすぐに使用する為つるつるした体温計では脱落を繰り返してしまいがちで確かな検温がなかなかできず不便であった。本発明は以上のような欠点をなくすためになされたものである。

【0006】**【課題を解決するための手段】**

舌下式体温計の歯が当たる位置に上歯と下歯で口腔の内外に働く力を受け止めバランスを取ることのできる形状の装着物を挿着することによりその解決を図ったものである。すなわち舌下式体温計に中央部を帯状に膨出させた緩衝体を装着することにより体温計を口中に咥えたときに該緩衝物を上歯と下歯で咥えてその外れ防止を図ったものである。

【0007】**【発明の実施の形態】**

以下、本発明の実施の形態について図面を参照にして説明する。図1は本発明の緩衝体を体温計に装着した状態を示す斜視図、図2は体温計を舌下に差し込んだ状態を示す使用説明図である。

【0008】

舌下式体温計1を咥えて歯の当たる位置に上歯4と下歯5の噛む力を受け止められる帯状の膨出部3を設けた緩衝体2を装着するようにした。すなわち該緩衝体2は、図1に示すように体温計1に挿通されて口にくわえる部分で止まるほどの径としたリング状の弾性体

10

20

30

40

50

であってその中央部分を帯状に膨出させてある。そして図2に示すように口に咥えたときには該膨出部3の前側に上歯4が、後側に下歯5が押し当たるので噛み締めたときに体温計1を前後のズレが無く挟み込むので体温計を確実に支持して口中でのズレ、脱落を防止することができる。尚、この緩衝体2は弾性ゴムまたはポリエチレン、ポリウレタン、塩化ビニール、ポリプロピレンなど合成樹脂材を成形したもの用いる。

【0009】

【発明の効果】

舌下式体温計に本発明の緩衝体を挿着することで検温のため口に咥えたときに体温計を歯でしっかりと固定できる。また通常の体温計に装着できるので体温計自体を加工する必要が無く安価な手段でその目的を達成することができるなどの効果がある。

10

【図面の簡単な説明】

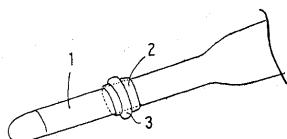
【図1】本発明の緩衝体を体温計に装着した状態を示す斜視図である。

【図2】本発明の体温計を口に咥えた状態を示す使用説明図である。

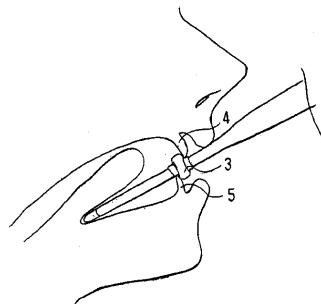
【符号の説明】

- 1 体温計
- 2 緩衝体
- 3 膨出部
- 4 上歯
- 5 下歯

【図1】



【図2】



专利名称(译)	防止舌下型温度计脱离的装置		
公开(公告)号	JP2004170296A	公开(公告)日	2004-06-17
申请号	JP2002337717	申请日	2002-11-21
申请(专利权)人(译)	赤冢 利枝子		
[标]发明人	赤塚利枝子		
发明人	赤塚 利枝子		
IPC分类号	G01K7/00 A61B5/00 A61B5/01		
FI分类号	G01K7/00.341.Z A61B5/00.101.H A61B5/01.250		
F-TERM分类号	4C117/XA01 4C117/XB01 4C117/XC26 4C117/XD08 4C117/XE23		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：将舌下温度计插入舌下，并试图将其牢牢握住时，将温度计推入口腔内部的力由上齿产生，但舌根和下齿在外侧。有一个问题是它充当了将其推出并掉下的力量。解决方案：这是通过插入可穿戴物品来实现的，该物品的形状能够在舌下温度计的牙齿接触的位置上，通过上下牙齿承受并平衡作用在口腔内部和外部的力。.. 即，将中央部分鼓成带状的环状缓冲体2安装在舌下温度计1上，以防止温度计被保持在嘴中时脱落。 [选型图]图1

